

## 令和7年度第1回小牧市少年センター運営協議会 議事要旨

- 【日 時】 令和7年6月5日（木） 午前10時～午前11時  
【会 場】 小牧市役所本庁舎3階301会議室  
【出席委員】 安藤会長、田上委員、井上委員、大谷委員、小川委員、川崎委員、河内委員、松本委員、宮本委員  
【事務局】 川尻こども未来部部長、小川こども政策課課長、植松少年センター所長、杉浦少年センター副所長、千種指導員、梶浦指導員、若林係長、岡野  
【ワザパー】 坂田主幹（市民安全課）、瀬尾指導主事（学校教育課）  
【傍聴者】 なし  
【内 容】

### 1 あいさつ

（川尻部長）

皆様方には日頃より、青少年健全育成にご尽力賜りまして誠にありがとうございます。さて、少年センターでは、少年の非行や、被害を防止し、健全な育成を図るために、街頭パトロールや相談事業などを中心に活動をしています。

何とかコロナ禍を乗り越えることができましたが、依然として不安や悩みを抱える児童が多く、ひきこもりや不登校の児童は増加しており、また、スマホ依存になる子供やSNS上での中傷やいじめ、闇バイトなど、ネットトラブルによる問題も発生しています。

少年センターでは、広く市民への意識啓発だけでなく、このような複雑な問題を抱える児童に対する支援などへの問題解決のために、関係機関と連携を密にしながら、これからも青少年健全育成の推進に努めていきたいと考えています。

本日は今年度の活動方針や、実施計画などを議題としていますので、委員の皆様からの忌憚のないご意見をいただきたいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

（安藤会長）

日頃は少年センターの諸事業に対して、お力添えをいただきありがとうございます。川尻部長の挨拶にもありましたが、何となく最近のニュースを見てますと暗いニュースばかりで、もうちょっと明るいニュースはないかと思って探してありましたら、ますます暗くなるようなニュースがありました。中日新聞にありましたが、美人局で恐喝疑いということで、安城市の中3の男子生徒と18歳の女が捕まったということがありましたが、世の中何が起こっているのかということを考えますと、大変根が深いなと思っております。

この会がどれだけその解決に向けての力になるのかわかりませんが、少なくとも小牧の子供たちが健全な生活ができるように、皆さんのお力添えをいただきたいと思っておりますので今日はよろしく願いいたします。

### 2 議 題

- （1）令和7年度活動方針について
- （2）令和7年度実施計画について

○要覧6ページから11ページに基づき少年センター所長より説明

**【質疑応答】**

(安藤会長)

6ページの「ネット犯罪・トラブルから子どもを守る」情報活用方策や有害情報対策の推進があるが、6月3日に県民文化局の県民生活部社会活動推進課から出ている青少年のネット安全安心講座のご案内というチラシをもらってきた。チラシによると無料で講師を派遣してもらえ、来年の3月まで予約することができ、派遣可能日もまだ多い。

内容も希望に応じていろいろなメニューを用意されていて、派遣してくれるということで学校にとってもいいと思うし、青少年健全育成の各学校にとっても活用できると思い、コピーを持ってきたが、少年センターが把握しているのか。昨年度の実態や今年度の活動方針で、そのような学習会を講師も見つけてきて行っているのか。

(事務局)

警察や先生と話をしても、子供たちの様子を見ると、スマホ・SNSの問題が一番に話題として上がってくる。社会全体でも、闇バイトに代表されるようなことが社会問題化しているため、啓発することが一番だと思う。

先ほどの会には副所長も出席しており、同じ資料を持っているので、早速学校にも周知し、生徒指導連絡協議会でも周知していきたい。

県はネットモラル塾というページを開設していて、警鐘を鳴らしている。

小牧市では、声かけチラシを配布しており、裏面がこのネットやSNSの使い方に特化した記事となっている。学校で指導してもらいながら、市内の小中学校の保護者の方全員に配って、保護者の方々も一緒になって子供たちのことを考えてもらっている。子供たちを被害者あるいは加害者にしないようにということで行っている。年度末に県が大幅に改定した。おそらく闇バイトの状況を受けてだと思いが、対象年齢を少し上げていると感じる。

それにあわせて少年センターとしてもチラシを全面的に改定し、裏面中段には、愛知県警と大学にて開発されたコードマモというアプリの宣伝も入れている。また、新入生の子供たちにも注意をして欲しいので、配布を高校1年生まで広げ、少しずつ広げていきながら進めていきたいと思う。

(3) 補導・相談活動について

○補導：要覧12ページから17ページに基づき少年センター職員が説明

**【質疑応答】**

(井上委員)

15ページの補導の③に少年の数があるが、声をかけてみたところ、後で大学生、専門学生だったということがわかるのかなというふうに想像するが、明らかに大人であれば声をかけないのか。

16ページの相談活動のウ性格の中にその他がかなり多いと思うが、LGBTQなども含まれているのか。

(事務局)

声かけに行くところには大学生はほとんどいない。声かけのときには、中学校の先生の同行があるため、年代や卒業生かどうかは大体わかる。声かけをする中で年齢とかを把握するということが多い。

16 ページの相談活動のウ性格の中のその他には、発達障害や引きこもりが入る。この分類の方法は、以前から変わっていない。神経質となっているところを、発達障害に改めてカウントすればわかりやすいと思う。発達障害とか引きこもりの相談については、ほとんどはカウンセリングを行っている。

(小川委員)

15 ページの④の内容別補導数の上から2段目の喫煙のところの数値を見ると令和4年から大変増えている。この要因がわかれば教えてほしい。

(事務局)

要因は明確にはわからないが、電子タバコが普及して、今はお店ではなくネットで簡単に手に入るため、昔よりも入手するハードルが低くなっていることも要因になっているのではないか。

SNSを通して薬物、たばこに対する子供達にいけないものだという意識のハードルも非常に低くなっていて、子供たちが非行をすることに対して、軽く考えるということもあり、簡単に広がっていきやすいのではないか。1人が始めると、その子を中心にして、どんどんハードルは下がるような状況にあると考えている。中高生が最近多い。高校生が吸い、中学生に移っている事案がある。

(小川委員)

喫煙についてはどの辺で補導されているのか。

(事務局)

場所が一番多いのは小牧駅周辺である。駒止公園などにも非常に溜まっていたが建物を撤去されたり、マークされたことによって、最近の動向としては小牧山の辺によくいるのではないか。

小牧駅から小牧山の通りはこれから注意していく。各地区のコンビニやコンビニ近くの公園でも補導している。

### 3 懇談

(田上委員)

薬物乱用や大麻などのよく聞くものだけではなくて、最近だとオーバードーズ、市販の薬を大量に服用する事案が出ていてネットのニュースにあるので、市が防止策などを進めていく必要が出てくると思う。

(大谷委員)

小牧は外国人の人口が他の自治体に比べ多いので、薬物事案は警察的には取り扱いが多い。

たばこと大麻は使用方法が一緒であるため、たばこを吸ってる少年は、進められれば大麻を何の抵抗もなく吸ってしまう。逆に覚せい剤は注射器を使うので躊躇す

る。少年の大麻の検挙は非常に増えている。

大麻は世界的に見ると、合法的な国もいくつかあり、子供たちもいろいろなネットで情報を調べてハードルが低くなっている部分があるので、そういった部分も啓発していくとよい。

自分たちで都合のいい情報のみ持っていく。「大麻は他の薬物と違って依存性がないから大丈夫なんだ」という認識の少年は非常に多いので、そうではないということ働きかけていくことも必要だと思う。

(井上委員)

外国人が多いということで、声かけや補導をするときに何か、困難さを感じるものがあれば教えてほしい。

(事務局)

外国人は多いが、中学校高校を卒業した子も多く、ある程度日本語が分かるので、カタコトな子たちをあまり補導したことがないし、何か特別問題を起こしている子も今のところは、少年センターで見る限りはない。

(大谷委員)

小牧の少年たちは、集団で悪いことをするのが特徴としてある。

個人的には児童生徒のモラルが結構低いと感じている。小牧駅から警察署まで歩いて通勤していて、駅から小牧山に向かう綺麗な道路を通っていると、小学生が歩道いっぱい広がって4・5人並んで歩いている。そのため、自転車は止まり、車道に出て走ったり、対面するときにも、どかず、話しているので、注意した。

昔はおせっかいおじいちゃんおばあちゃんがどこの地区にもいたので、悪いことしたら注意される思っていた。しかし、今は世知辛い世の中になったので、そういうことするとまた後で、トラブルになるので、誰も注意しなくなったのが現状だと思う。警察の中にも私みたいに注意する人間は、珍しいと思う。

子供がそういうルールやマナーを守れないのは、親が教えないのかなってというのは、非常に感じている。逆に教えられてない子供の方が被害者みたいなのところもあると感じた。

(川崎委員)

今、お話が色々出たところが、全て子育て世代包括支援センターに関わっていると感じた。オーバードーズの件数も増えている。

こどもだけでない。親もそう。私たちも何とかしたいが、何もできない。訪問看護さんが入ったりするのが一般的だが、大体そうそういう方は、家庭に問題があり、妊娠した時から、出産したら上手くいかないのではというのがみえている。

私たちは18歳までで終わるが、先日、ヘルパーさんと話す機会があり、「私たちは死ぬまでこの人たちの支援なんですよ」という言葉を聞いたとき、妊娠期から関わっている私たちには何が出来るのかなと思った。

(河内委員)

岩崎中学校は第3金曜日の夜7時半から味岡市民センターに集まって、1時間弱、情報交換し、それからその付近を巡回している。

パークアリーナの公園の治安が悪いと聞いたので、7月はパークアリーナの方に集まって、そこを一回りしようかという話になっている。岩崎住宅の公園も良くないという話は聞いているが、7時半から巡回しても誰もいない。

今のところ私たちは見せるパトロールをしている。警察の方は何かあったらすぐ110番してくださいと言われていたが、見せるパトロールでいいのかなと思いつつ、月1で頑張っている。

(松本委員)

最近少年の対象者が増加していると感じている。少年の場合、通常、監察の対象者は月2回面接をするが、来ないし、電話に出ない。家に手紙を入れてお話をすることが結構ある。家に訪ねてチャイム押しても出ない。ほかにも車の中にお母さんが乗って見えたんで、声をかけようと思ったら急発進で逃げられ、危うく轆かれそうになったことがある。少年センターの活動の中でも保護者の方が協力しないといけないと思うが、そういった状況がわかれば教えてほしい。

(事務局)

保護者と関わることは少ないが、言うことを聞かないなどの相談はあるので、そういった相談に対しては保護者へ、必要に応じて他機関を紹介したり、女の子のSNS絡みのいかがわしい行動がごく稀にあり、そういう場合には警察に行くよう話をしている。

また障害がある場合などは、必要があればカウンセラーの先生に繋いでいて、直接継続的な問題行動等について、保護者に連絡をするという活動までは少年センターはしていない。

(宮本委員)

小学校で相談員をやっているのですが、不登校の児童は年々増えている。相談に来る親御さんは、まだお子さんのことをよく見ている方だと思うが、それプラス不登校予備軍の子もたくさんいて、母親があまりそこまで重視していない場合が多い。

子供を置いてお仕事に行かれて、1人でいる子や、不登校の訪問に先生が行かれても、出てこない親もいる。

母子家庭も多く、お母さんたちも早くからお仕事に行かなくてはいけないといって、保育園や託児所に1歳ぐらいから預けているお母さんもいるが、一方で愛情不足な面は、年々よく見られる。あと問題行動を起こしている子も愛情が欠けていると現場では感じている。

市が不登校の支援として、小中学校で支援ルームという、居場所づくりでお部屋を設けている。現状、先生たちも業務で、大変なことが多く、学校にいる人数の中でということで、ボランティアを募ったり、相談員がそこに入ったりしているものの、人手不足は問題視されている。

子供の居場所はとても必要で、理想的にはとてもいいことなので、これをもっと改善して必要があると思う。

母親のそういう子供たちのもっと愛情をかけられるような、まちづくりになると、もっといいと思う。

## 5 連絡依頼事項

笑顔でさきがけあいさつ運動の一斉啓発活動を6月30日と10月30日に予定している。